

米国のサブプライムローン問題をきっかけに、英国の銀行業界は、負債拡大や流動性の欠如という危機に直面している。これを受け、国内の公益事業会社をめぐっては、日々の操業やインフラ開発に必要な資金繰り能力への懸念が生じている。これは総額300億ポンドともいわれる公益事業部門の累積債務が原因だ。オーナー企業は資金調達に向け、多くは買収の一環として、安定したキャッシュフローを担保にレバレッジ(借入資本による投機)をかけてきた。「大停電が発生するのは時間の問題で、電力会社が一般家庭や病院、企業に電力供給を確保できない事態になりかねない」(有力投資銀行の最高経営責任者)との見方もある。金融機関による調査によれば、とりわけギアリング比率(自己資金に対する他人資本の割合)が高い場合、公益事業会社がある特定の借り入れ手段を講じるのは、ますます困難になってきている。



公益事業会社の比較

投資顧問会社を対象とする調査で、公益事業会社への融資に関するリスクレーティングは以下のようにランク付けされた。

高リスク

- ・発電会社
- ・英国のエネルギー供給会社
- ・欧州連合(EU)内の公益事業会社
- ・BTグループ(通信)
- ・BAA(空港運営)

中リスク

- ・英国の配電会社
- ・水道会社

低リスク

- ・英国の送電会社

調査によると、過剰債務を抱えた英国の公益事業会社11社は信用収縮で破たんする危険性ははらむ。

リスクの水準と主因

主要金融機関の投資マネージャーの間では、公益事業会社への融資リスクは過去4年間で拡大したと考えられている。背景には政治的問題、規制面での問題、経営者の問題がある。

聞き取り調査によると、投資マネージャーの61%は長期的には公益事業会社への融資に懸念を示していないものの、そのうち67%は、将来必要な借入れが全て実現するわけではないとみる。これは著しい資金不足に陥る恐れがあることを示唆している。

おもな融資リスクは以下の通り:

- 公益事業会社の経営陣に、設備投資や運営コストの公約・目標を達成する能力があるか。経営者リスクの水準は、ここ5年で倍増したと認識されている。
- 規制面での問題は大きいと見なされており、しかも大半の投資マネージャーはそれが増えたと考えているようだ。しかし一方で、当局が顧客と投資家の利益のバランスを取り、公益事業会社が適切に融資を受けられるよう法的義務を果たしていると評価している。
- 高水準の既存債務

全般的に、投資業界では公益事業部門のギアリング比率は55～65%が適切と見なされている。回答者のうち、これを上回る65～70%が適切としたのは10%にすぎない。興味深いことに、全体の半分近くは同部門での競争は有益でないと考えている。